

事務事業評価表 平成24年度

政策 安全で快適な都市生活の充実
 施策 消防・救急の充実
 基本事業 施策の総合推進

事業名 **常備消防用備品等整備事業**

[0370]

部名	消防	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	警防課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>災害現場等で活動する隊員</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>装備が充実することにより、隊員が安全に救出・消火等の活動ができるようになる。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>消防活動は年々複雑多様化しており、災害活動も苦難に満ちている中で効果的な消火・救助活動等を行うには、機動力を向上させる装備品が必要不可欠。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	隊員数	人	129	129	130	130
対象指標2						
活動指標1	予算金額	千円	8,254	2,038	4,195	4,282
活動指標2						
成果指標1	装備品不具合件数	件	0	0	0	0
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	8,220	2,854	4,195	4,282
正職員人件費 (B)		千円	12,447	8,060	4,013	4,047
総事業費 (A) + (B)		千円	20,667	10,914	8,208	8,329

費用内訳	
23年度	使用料及び賃借料 197千円、備品購入費 3,998千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始 背景		事業を 取り巻く 環境変化	消防は自然災害、人的災害、火災、救急救助等、活動も広範囲にわたり 都市化と人口増加による災害形態の変化と消防隊員の高齢化により 小人数でも安全に効率的な災害活動が行えるように装備の充実と軽量化が求められている。
------------	--	---------------------	---

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由
・
根拠は？

火災現場等の特殊な環境下で市民の生命を最優先に職員が安全に活動するための対策として妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由
・
根拠は？

消防組織法、消防法及び消防力の整備指針の規定に基づき行なっている基礎的事務事業である。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由
・
根拠は？

整備計画に基づき老朽化による機能低下や修理不能な装備品の更新を進めている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は？

計画的に整備することで、職員の安全管理のほか活動職員の災害現場における活動時間の短縮などの成果が見られる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算 + 所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由
・
根拠は？

使用する資機材及び装備品に関しては、整備する個数や仕様など可能な限り効率的に更新を図っている。